



人狼ゲームで
美少女キャラになった俺は
まさかの裏切りと
3Pに悶絶する

流行りの人狼ゲームは、今やパソコンやゲーム機でネットを通じても、盛んに行われている。

さまざまな世界観、独自のルール、個性的なアバターで構成されるゲームのなかで、一際、異色なのが∞禁の美少女もの。

プレイヤーは全員美少女で、一人だけ世にもおぞましく凶悪な狼ならぬ、変態がまぎれこんでいる。

美少女たちが人狼ゲームに強制参加させられるまでのストーリーは以下の通り。

女子高の生徒たちが登山をしていたとき、十人の少女が遭難。

なんとか合流をしようと森をさ迷うも、大雨と強風が襲いかかつてきて。

ちようど古い屋敷の廃屋を見つけ、ドアが開いていたので避難。

日が沈んで闇に包まれた森をむやみに歩くのは危険と判断し、屋敷で一晩過ごすことに。

古い燭台に火をつけて、広間で美少女たちが身を寄せあつて寝ていると悲鳴が。

二人が屋敷内のトイレを探していたところ、首つり死体を見たという。頭が狼で裸の男が首を吊って揺れ、おもむろに腕をあげて指を差したと。

「はじめから不気味だったのよ!」「変質者か犯罪者が隠れているんじゃない!」と少女たちはパニックに。

まだ外は雨が降っていたものを、すぐに荷物をまとめ外にしようと。

が、玄関の扉は開かず、ほかの扉もびくともせず。

すべての窓には格子がはめられ、密室と化した屋敷から脱出不可能に。

「どういうこと!?!」「なにが一体どうなっているの!」と泣き叫ぶ彼女たちのまえに「かわいそうに」と男が出現。

ただし青い光をまとって半透明だし、足がないあたり亡霊のよう。

「わたしは、この屋敷の管理人だったものです」と自己紹介した彼は、現状の異常さについて説明を。

大昔、屋敷に住んでいた主人は、たまに少女を買って、野蛮な遊びをしていたとか。

密閉した屋敷内に少女を解き放ち、全裸で狼の頭をかぶった主人が追いかけるというもの。

少女は捕まったら、主人に犯されて殺される。

屋敷のどこかに玄関の扉が開く鍵を隠し、一応、少女にチャンスを与えたものを、だれ一人、脱出できた子はいない。

管理人は、主人が不在のときに屋敷の留守番をするから、その悪行を知らず。

ただ、遊びの痕跡を見つけ、疑った彼は、主人が屋敷にきたとき盗み見をして、惨たらしい真相を把握。

隙を見て、牢屋に閉じこめられていた少女の手を引いて屋敷から逃げだし、町の屯所（警察署）に助けを求めた。

事情を聞いた羅卒（警察官）は、多くの同僚をつれて森の奥にある屋敷へ。

数にものをいわせて、凶暴だろう犯人をひとつとらえようとしたが、屋敷の主人は首を吊って自殺。

主人の死によって事件は片づいたとはいえ、屋敷はそのまま放置。

「不吉だ」「けがわらしい」と親戚が手をつけたがらず、買い手もつからなかつたからで。

事情を知る者も近よらなかつたし、なにも知らないよそ者は、山奥に

ひっそり佇む屋敷の存在に気づきもしなかったが、事件後、山で遭難者が続出。

近くに有名な登山コースがあるにしろ、少女ばかりが行方不明になるのは異常。

「なにかしら亡くなった旦那さまと関連があるのでは」と気になった元管理人は再び屋敷のもとへ。

そのとき主人の悪霊にとり殺され、それからずっと屋敷に囚われたまま。

